

野田氏が政権構想

消費増税「覚悟持って実現」

民主党代表選に出馬する意向を固めた野田佳彦財務相が十日発売の月刊誌「文芸春秋」で発表する政権構想が九日、明らかにになった。財政再建を「未来への責任」と指摘し、消費増税を含めた税制

改革の実現に取り組む決意を表明している。野田氏は、政府・与党が消費税率を「二〇一〇年代半ばまでに、段階的に10%」と決めた六月の社会保障と税の一体改革案について

「覚悟を持って実現していく」と強調。社会保障制度の財源を安定させることで「雇用、消費の拡大を促し、経済成長につながる」としている。

原子力行政では、原発依存度の引き下げを

主張する一方で、「少なくとも二〇三〇年までは技術の蓄積が現実的」と指摘。稼働中の原発全基が来年四月までに定期点検のため停止するとして、現在停止中の原発も含め「安全性の徹底的な検証」を条件に、再稼働の努力をすることが最善の策だとしている。

出馬表明見送り

グループで会合

野田佳彦財務相は九日、国会内で自らを支持するグループの会合に出席した。野田氏は民主党代表選の立候補に意欲を示したが、出馬表明は見送った。

野田氏は自らの政権構想の複写を出席者に

配り「私の覚悟、思いを書いた」と説明。一方で「これは出馬表明ではない。市場がこういう状況だし、公債発行特例法案の件もあるので、しっかり職責を果たすのが基本だ」と強調した。

民主党内では、この日の会合で野田氏が出馬を正式表明し、代表

配り「私の覚悟、思いを書いた」と説明。一方で「これは出馬表明ではない。市場がこういう状況だし、公債発行特例法案の件もあるので、しっかり職責を果たすのが基本だ」と強調した。

日本の原発輸出に関しては「短兵急に止めるべきではない」と表明。唯一の被爆国として原子力の平和利用技術を蓄積してきたことや、新興国を中心に原発の需要が高いことを挙げ、原発輸出を日本の国際貢献の一つと位置づけている。

生に重点を置いて必要な政策を懸命に進めてきた」と実績をアピール。時機が来れば先頭に立つ覚悟だ」と意欲をにじませている。